

立命館大学 法学部

同窓会誌

多くの「ご協力」を得て



立命館大学法学部同窓会
会長 羽賀 孝

平成12年9月22・23日の両日にわたり、立命館大学法学部創立百周年記念事業が盛大に開催され、記念式典を皮切りに

たが、意義深く御同慶にたえない次第です。

「21世紀の法学・政治学の役割」をテーマにした国際学術シンポジウム
○衣笠キャンパス存心館周辺で催されたホームカミングデー

立命館大学法学部同窓会は、「立命館大学法学部百年の歴史の中で培われた文化を再認識するとともに、第二世紀目の百年に向けて、私たちの新たな役割・立場を見出すべく、法学部校友のより広い多様な人々との社会的なネットワークを

法学部の展示
○法学部同窓会の創立総会
○法学部百周年記念祝賀会
等が挙行され、23日、大河法学部長を中心に、久岡常務理事、濱川副会長等設立準備委員の約二年間にわたる御努力により、法学部同窓会が目出度く誕生しまし

発展させ、相互の交流、支援を活発にし、独自の新文化を創造する」と規約に謳われておりますように、本会を通じて私たちは立命館大学法学部の同窓生として、相互親睦を図るのみならず、文化的向上をも切に願っております。
わが立命館大学は、「教職共同」とい

う堅い結びつきによって学園を運営し、衣笠キャンパスを中心に、びわこ・くさつキャンパスへの展開、昨年4月にはアジア太平洋大学の開学など、名実ともに私学の雄として全国的にも高い地歩を占めております。学術交流や留学生の往来など、教学の新展開によってその存在は国際的な重みを加えつつ百周年を迎えたわけですが、法学部は立命館大学の歴史そのものであるといっても過言ではないと思えます。

私どもは、その立命館大学法学部の同窓生だという縁で堅く結ばれております。このご縁を大切にしていこう一方、法学部に対する心強い応援団になればとも思ふ次第です。
法学部の同窓生は、四万六千人余を数え、法曹会はもとより、政官界、経済界、学術文化界など社会のあらゆる分野で活躍され、頼もしい限りですが、一人でも多くの同窓生が本会に入っていただき、同窓会が21世紀に雄々しく羽ばたきよう、同窓生一同の御理解と御協力を切にお願いいたします。

将来を見つめて



立命館大学法学部同窓会副会長
弁護士 赤木 文生

昨年9月23日、本学法学部創立百周年を期して法学部同窓会が盛大に挙行された。同時に発行された法学部創立百周年記念誌をひもとけば、わが法学部が本学の発展に果たした偉大な功績を見出すことが出来る。この輝かしい歴史を踏まえ、我々同窓生は如何になすべきである

うか。同窓会結成まもない現時点においては、まずお互いが世代を超えて親睦をはかり、そのうえで、同窓会として法学部を支える計画を練るのが、本会の発展に繋がるといえよう。
いま、法学教育のあり方、とくに法曹教育のあり方が課題となっている。そし

て、司法制度改革審議会の審議の成り行きに法学部を擁する各大学が重大な関心を抱いている。本学においても「21世紀の法曹養成」に意を注ぎ、法科大学院構想を練り上げ、連続シンポジウムを実施するなどして、あるべき日本型ロースクールの具体的課題を検討してきている。われわれは、この問題は単に法曹の量と質の問題に限らず、法学部学生教育の根本にかかわる問題であることを認識すべきである。

ロースクールを有しない法学部の存在意義が希薄であることは否定できず、我々としては、本学がすばらしいロースクールを設置されることを期待すると



もに、これを支える学部の位置付けないし学部との枠組みの重要性に思いを致すべきであろう。そして、司法制度改革審議会の審議がわが国の法学教育の根幹を

二〇〇〇年9月23日、立命館大学衣笠キャンパス存心館2階七〇一号教室において、法学部同窓会創立総会が開催され、めでたく「立命館大学法学部同窓会」が発足しました。今まで、法学部の「同窓会」がなかったこと自体不思議なことでしたが、法学部百周年目にしてようやく出来上がり、喜びも一入です。同窓会創立にあたっては、先輩、後輩を含めいろいろな方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

今後は、同窓会として、大学とも連携を取りながら、いろんな行事、活動（遊びも含めて）に取り組んでいきたいと思っています。さすが立命館大学の同窓会だといわれるようなものを目指します。これからは皆様方にもいろいろとご協力をお願いすることになると思っていますので、よろしくお願いたします。

立命館大学法学部同窓会 事務局長 濱川 登

揺るがしかなない制度改革に向かっているという認識のもとに、われわれ同窓生が一致協力して法学部を支援して行きたい。特に、法曹の途を取っていない同窓生の方々の支援を期待したいと考える。

一期一会、同じ学窓で学んだという出会いを大切にしてお互いの親睦をはかるとともに、法学部の将来を見据えて、その発展のために尽力していきたいと思うや切である。

二〇〇一年度は史上最大の新入生数

法学部は、21世紀最初の新入生を立命館大学法学部史上最多数の学年として迎え入れました。その数、実に一一二名。一九七〇年代から八〇年代にかけては、およそ六〇〇名程度の新生でした。最近、定員数が増加したこともあり、一学年が九〇〇名程度から一千名前後の規模となっています。法学部の人気が高まった証拠でもあり、喜ばしいことです。多数の後輩達が、元気にさらにその活躍の場を広げてくれるであろうと思われま。

女子学生比率4割を超える

かつての法学部は、女子学生比率が1

割程度でしたが、最近、女性の比率が年々高くなり、4割を超え5割に迫る勢いを見せています。今年の入学者について見ても、1学年で女性が四五〇名を超えています。このような状況にに応じて、法学部の雰囲気も堅苦しいイメージばかりではなくなっていることがご理解頂けるのではないかと思います。男性の視点と女性の視点が、相互に交流し合つて、数の上でも平等に議論が進むことにより、一層豊かな学園生活となつていきます。卒業年次が古い方々には信じられないかもかもしれませんが、クラスによっては、女性が三分の二を占めるという場合さえ出てきています。司法試験の合格者にも女性の数が増加しています。ゼミや基礎演習のクラスでも、女性の活躍は目覚ましいものがあり、男性も大いに刺激を受けています。

社会人学生の活躍

昼夜開講制をとる現在の制度では、夜間の講義を中心に勉強する社会人学生も増えています。20歳台から70歳を超える学生まで、多様な層が社会人学生として受講しています。講義の後には、18歳で入学した学生以上に熱心に質問をする

姿も多く見られます。定期試験では、受験勉強などテスト慣れした若い学生諸君に混じって、社会人学生が大変奮闘しています。今も昔も、試験期だけはどの学生も共通の心配事（テストに合格できるかどうか）を通してある種の共同体意識が芽生えるのかもしれませんが。テストの情報交換やノートの貸し借りが頻繁に行われています。

大学院への進学者の増加

立命館大学大学院法学研究科への進学者もどんどん増加しています。定員が1学年一三〇名と増加しています。これは、従来の研究者養成のための大学院というだけではなく、高度専門職業人の養成という役割を現在の大学院がもっているからです。したがって、大学院の進学者もそれぞれの目的に合ったコースに入学することになります。研究職に就こうとする学生は、研究コースを受験し、司法試験に合格し法曹になろうとする人は、司法専修コース、税理士や弁理士その他の資格試験や公務員試験に合格しようとする人は、法政専修コースを受験します。今年は、一〇〇人を超える大学院生を迎えました。

ロースクール（法科大学院）が設立さ

れると、大学院法学研究科がどうなるのか、これは緊急に検討を要する重要な問題となっています。

法学部の先生方の定年退職

学生がその時代の空気を反映して変貌するのと同様に、大学で教える教員もやはり時代とともに交替していきます。最近の10年余りの間で昭和10年生まれまでの先生方が定年退職されました。天野和夫先生（法哲学）、窪田隼人先生（労働法）に始まり、伊藤堅二先生（英語）、宮地國敬先生（英語）、乾昭三先生（民法）、山手治之先生（国際法）、塩田親文先生（商法）、井戸田侃先生（刑事訴訟法）、辻善夫先生（ドイツ語）、畑中和夫先生（比較法・憲法）、山下健次先生（憲法）、松岡正美先生（経済法）、中井美雄先生（民法）、長尾治助先生（民法）、菊井禮次先生（国際政治）、志村治美先生（商法）、堤功一先生（国際機構論）、田村悦一先生（行政法）、中谷猛先生（政治思想史）といった顔ぶれです。このうち、松岡先生、長尾先生、菊井先生、堤先生、田村先生、中谷先生は、特任教授として本学で今年も講義を担当されています。また、兼子義人先生と福井英雄先生は、在職中に病気のため亡く

なられました。

法学部への新任者

この10年余りの間（1989年以降）は、法学部がとくに発展・充実する時期に当たり、新任者が本当に多数に上りました。これは、上述の退職された先生方の数をはるかに上回る数字となっています。その名前を赴任順に挙げますと以下のとおりです。伊勢俊彦（哲学 文学部へ移籍）、佐藤満（政策科学 政策科学部へ移籍）、竹瀆修（商法）、佐藤敬二（労働法）、松宮孝明（刑法）、宮本太郎（政治文化論 政策科学部へ移籍）、吉田美喜夫（労働法 産業社会学部から移籍）、出口雅久（民事訴訟法）、吉岡公美子（英語）、和田真一（民法）、石原浩澄（英語）、大橋克洋（英語 立命館アジア太平洋大学へ移籍）、津熊良政（英語 文学部へ移籍）、有賀郁敏（体育学 産業社会学部へ移籍）、野口メアリー（英語）、大瀬戸豪志（知的財産法）、鹿野菜穂子（民法）、平野仁彦（法哲学）、三木義一（税法）、山下真弘（商法）、北村和生（行政法）、小堀眞裕（政治過程論）、堀雅晴（現代日本政治論）、山本忠（社会保障法）、エリック・ピースナー（英米法 現在はハワイ州弁護士）、市川正

人（憲法）、山根裕子（E.C法 政策研究大学院へ転出）、堤功一（国際機構論 現在は特任教授）、レオナルド・チアノ（英米法 現在は関西外国語大学）、谷本圭子（民法）、徳川信治（国際法）、山手正史（国際取引法）、米丸恒治（行政法）、岩居弘樹（ドイツ語 大阪大学に転出）、豊下檜彦（国際政治論 関西学院大学に転出）、徐勝（比較人権法）、宮井雅明（経済法）、松本克美（民法）、渡辺千原（法社会学）、岡野八代（政治思想史）、葛野尋之（刑事訴訟法）、倉田原志（憲法）、工藤祐蔵（民法）、樋爪誠（国際民事法）、藤本利一（民事訴訟法）、堀田秀吾（英語）、バイロン・シバタ（英米法）、小山泰史（民法）。

立命館法科大学院設置に向けて

我が国のあるべき司法制度について審議中の司法制度改革審議会は、昨年10月に審議の中間まとめを行いました。その中で、毎年三千名の法曹を生み出すための新しい養成制度として、従来の司法試験制度から法科大学院制度に切り替えるべきことを表明しました。すでに、本学では2000年1月30日、4月15、16日、9月30日の3回にわたって法曹養成のあり方を多面的に検討し、学内外から

意見をいただくシンポジウムを開催して
きました。また、学内に法科大学院設置
準備のための委員会と事務室を設けて、
立命館から法曹会へ有為な人材を引き続
ぎ輩出すべく、万全の体制をとっていま
す。

法務実習プログラム—OB・OG の協力で運営される大学の授業

大学のカリキュラム改革は頻繁に行わ
れ、変わってきていますが、最近の大
きな潮流の一つに、インターンシップや実
習科目の導入があります。いわゆる教室
での座学ではなく、キャンパスを飛び出
して現実社会に接することで、難関資格
試験を突破するための学習の糧とした
り、問題意識を深めてもらおうという試
みです。大学が実施している企画にも多
くの法学部生が参加していますが、法学
部でも独自に「法務実習法律事務所プロ
グラム」と「法務実習司法書士事務所プ
ログラム」をOB・OGの弁護士、司法
書士の方々の協力を得て実施していま
す。「法律事務所プログラム」は4年前
から、「司法書士事務所プログラム」は
その翌年から開始し、毎年あわせて40名
ほどの2回生を、1事務所につき1名引
き受けていただいて、学生を法律の実務

に触れさせていただいています。このよ
うなOB・OGの方々の協力を得つつ、
正課授業として、しかも毎年数十名の規
模で実習を実施しているのは立命館でも
法学部だけであり、他大学の例と比べて
も遜色のない制度であると思われます。
とかく試験に関係のないことは勉強して
も無駄と言う風潮もある中、今後の実習
プログラムに参加した学生の活躍が期待
されます。

変わりつつある夜間主コース(二部)

立命館大学は夜学としてスタートし、
かつて二部(夜間部)に多くの学生が通
っていた時代をご存知の方は多いと思
います。二部法学部は官公庁や企業、自営
業で昼間働きながら学ぶ人が多く、一
部とはまた違った授業風景、キャンパス風
景が展開されていきました。しかし、その
法学部でも近年は昼間に働き夜間に学
ぶ勤労学生の数は急速に減少しています。
一般的な18歳人口の減少という問題のほ
か、就業スタイルの変化と言うものも確
かにあると思われます。法学部でも社会
人学生等については昼夜にまたがる履修
を認めるようになってきており、従来の
二部はすでに夜間主コースと名称も改め
ています。ライフスタイルの変化に対し

て、学びのスタイルをどのように変えて
いくのが、法学部にも問われるように
なってきました。

20歳を迎えた「新」存心館

1981年に法学部の衣笠移転によ
つて、広小路と衣笠の二キャンパスから、
いわゆる衣笠一拠点化が完了しました。
その当時はここ衣笠では最新の建物であ
った「新」存心館も、今年で20歳を迎え
たことになりました。この間、衣笠キャン
パスもずいぶんと変わりました。国際関
係学部や政策科学部がキャンパスに仲間
入りした一方で、理工学部、経済学部、
経営学部は滋賀県・草津の新キャンパス
に移転しました。衣笠キャンパスから
は、現在では見られないような結構急な
傾斜の階段教室があった三号館や二号館
などは姿を消し、新しい建物が増え、諸
施設の移動もずいぶんと行われていま
す。そしてなんとと言っても、昨年の夏か
ら中央グラウンドを緑地と広場に作る工
事が進められ、存心館の風景はまたまた一
変しました。つい目に付く変化にとらわ
れがちですが、中央グラウンドの周りの桜
や正門から南に並ぶ楠は、いつの間にか
ずいぶん貫緑を増したようです。



●立命館大学法学部 ● 同窓会第2回総会の開催

- ▽2001年6月2日(土) 14時から
- ▽全日空ホテル朱雀の間(二条城前)
- 2000年度の活動報告、決算報告
- 2001年度の活動方針、予算説明
- 記念講演会 大和デパート会長
大井一星氏(本会副会長)

※総会終了後に懇親会を行います
▽会費 5000円

総会に先立ち、13時から幹事会を
行います。